

ホタテガイ養殖管理情報

半成貝の適期出荷と適切な養殖施設管理を！

半成貝に異常貝が多く見られる養殖施設がある一方、好成長により養殖施設がすぐに沈むという情報もあることから、以下の点に注意して出荷等の作業を行ってください。

1 異常貝とは？

外套膜（通称、ヒモ）に傷ができて、そこから出血した血が固まったものが内面着色です。貝殻は外套膜で作られますが、外套膜に傷ができるとその部分で貝殻が作れなくなるため、欠刻になります。

いずれも異常貝の原因は病気ではなく、“ケガ”です（図1）。

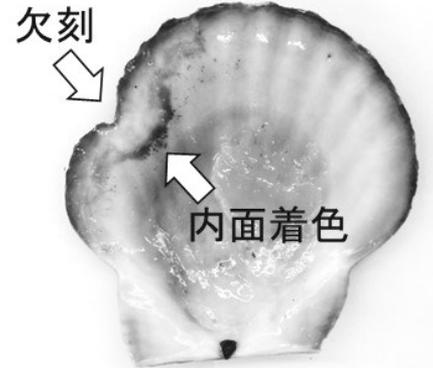


図1 異常貝

2 半成貝の出荷と養殖管理の注意点

(1) 半成貝は出荷時期の後半になると、水温上昇や速い流れの影響などで死貝が多くなり、水揚げ量が減少し、養殖残渣が増加する場合があります（図2）。

異常貝が多い場合や、収容枚数が多い場合は早めに出荷するようにしましょう。

(2) 不安定な養殖施設は波浪や速い潮の影響を受けやすいので、ホタテガイがケガをしないように養殖施設を安定させましょう（図3）。

成長が良く、調整玉の沈むペースが速い場合でも、過剰な玉付けで調整玉を流すことのないように気をつけましょう。

籠数が多い施設では、間引き出荷により養殖施設1ヶ所当たりの総重量を軽くして、適切な玉付けや養殖管理が行えるようにしましょう。

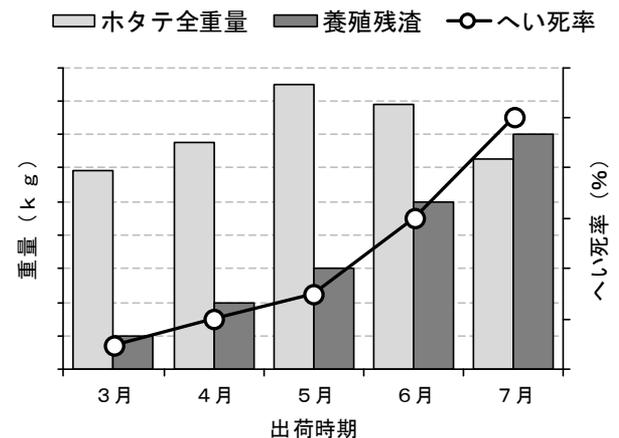


図2 出荷時期別の半成貝のへい死率とパールネット1連当りの全重量、養殖残渣量の模式図

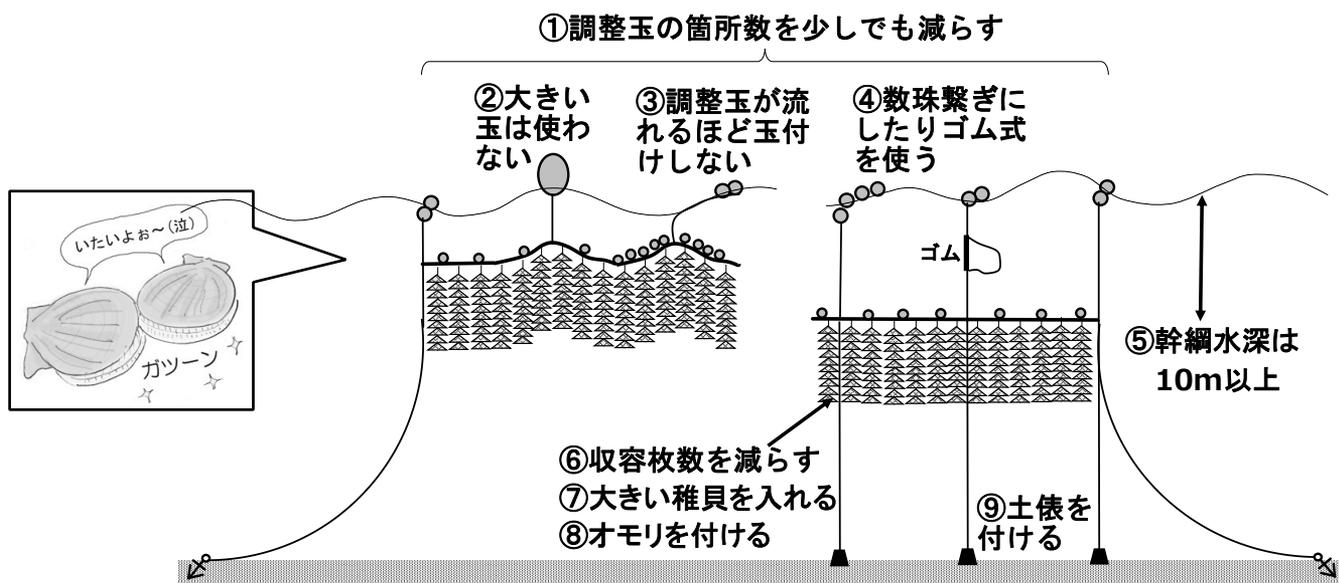


図3 養殖施設のイメージ（左半分が不安定施設、右半分が安定施設）

(3) 成貝向けとして秋に丸籠やパールネットに入れ替える場合は、異常貝の少ない施設の貝を残し、秋まで適切な玉付けや養殖管理を行うようにしましょう。

